



平成20年5月8日

各位

会社名	株式会社アパマンショップホールディングス (コード番号8889 大証ヘラクレス)
代表者	代表取締役社長 大村 浩次
本社所在地	東京都中央区京橋一丁目1番5号
問合せ先	管理本部 執行役員 管理本部長 中山 陽一
T E L	03 - 3231 - 8020

当社子会社の特別利益の発生及び平成20年3月期(連結・個別)業績予想の修正に関するお知らせ

当社の連結子会社であります株式会社AS - SZKI (JASDAQ:コード1995)が平成19年11月19日に公表しました「平成20年3月期中間決算短信」においての平成20年3月期の業績予想を別添資料のとおり修正しましたのでお知らせいたします。

以上

別添資料

株式会社AS - SZKIの開示資料

「特別利益の発生及び平成20年3月期(連結・個別)業績予想の修正に関するお知らせ」

各 位

会 社 名 株 式 会 社 A S - S Z K i
 代 表 者 名 代 表 取 締 役 社 長 千 葉 慎 二
 (JASDAQ コード 1995)
 問 い 合 わ せ 先 専 務 取 締 役 木 下 義 治
 電 話 番 号 0 5 5 - 9 7 1 - 3 0 4 0

特別利益の発生及び平成 20 年 3 月期(連結・個別)業績予想の修正に関するお知らせ

当社の平成 20 年 3 月期決算において下記のとおり特別利益を計上する見込みでありますので、その概要をお知らせいたしますとともに、当社の平成 20 年 3 月期決算(平成 19 年 4 月 1 日～平成 20 年 3 月 31 日)の業績予想について平成 19 年 11 月 19 日付当社「平成 20 年 3 月期 中間決算短信」にて発表いたしました業績予想を下記のとおり修正いたします。

記

1. 特別利益の発生及びその内容

連結子会社の蘇州鈴木温泉旅游開発有限公司における立ち退き補償に係る特別利益を当初 80 百万円見込んでおりましたが、前回予想よりも 121 百万円増加の 201 百万円を計上する見込みとなりました。

2. 通期の業績予想の修正

(1) 連結(平成 19 年 4 月 1 日～平成 20 年 3 月 31 日)

(単位:百万円)

	売 上 高	営 業 利 益	経 常 利 益	当 期 純 利 益
前 回 予 想 (A)	21,000	2,100	1,750	1,580
今 回 予 想 (B)	13,977	2,621	2,351	2,091
増 減 額 (B - A)	7,023	521	601	511
増 減 率	33.4%	24.8%	34.3%	32.3%

(2) 修正理由

売上高が前回予想を下回るとは当期末時点で把握できましたが、連結売上高合計における減少額及びこの売上高減少による利益に与えるマイナス影響やその他、下記 に記載のとおり利益増加要素もあり、また特に不動産ファンドの連結に関してその適正性を確認すること等を精査した結果、本日詳細が判明したため、業績予想を修正することいたしました。

連結売上高につきましては、主として3月末に見込んでいた連結子会社の不動産ファンド4社が所有する物件の売却が買手側の都合により一部翌期にずれ込んだこと等により、前回予想を 7,023 百万円下回る 13,977 百万円となる見込みであります。

連結営業利益につきましては、主として当社所有の利益率の特に高い不動産物件の売却益の増加、アセットマネジメント報酬等の増加に加え、不動産ファンドの家賃収益の増加等により売上総利益が増加し営業利益が前回予想を 521 百万円上回る 2,621 百万円となる見込みであります。

なお、翌期にずれ込んだ連結子会社の不動産ファンドが所有する物件の利益率は僅少なものであります。

連結経常利益につきましては、上述 に加え営業外費用(支払利息)の減少等もあり前回予想を 601 百万円上回る 2,351 百万円となる見込みであります。

連結当期純利益につきましては、上述 及び に加え、子会社(蘇州鈴木温泉旅游開発有限公司)の立ち退きに伴う特別利益 201 百万円の計上があり、一方、特別損失 103 百万円(平成 19 年 11 月 19 日付「平成 20 年 3 月期 中間決算短信」にて発表済 91 百万円)及び法人税等 363 百万円の増加もありましたが、前回予想を 511 百万円上回る 2,091 百万円となる見込みであります。

なお、上記修正理由に関し、当社の個別業績予想も影響が少なくないため、次の(3)のとおり個別業績予想をご説明いたします。

(3) 個別(平成 19 年 4 月 1 日～平成 20 年 3 月 31 日)

(単位:百万円)

	売 上 高	営 業 利 益	経 常 利 益	当 期 純 利 益
前 回 予 想 (A)	7,700	1,700	1,680	1,600
今 回 予 想 (B)	7,992	2,076	2,116	1,906
増 減 額 (B - A)	292	376	436	306
増 減 率	3.8%	22.1%	26.0%	19.1%

(4) 修正理由

売上高につきましては、前回予想を 292 百万円上回る 7,992 百万円となる見込みであります。

営業利益につきましては、主として当社所有の利益率の特に高い不動産物件の売却益の増加のほか、アセットマネジメント報酬等の増加に伴う売上総利益の増加により、前回予想を 376 百万円上回る 2,076 百万円となる見込みであります。

経常利益につきましては、上述 に加え営業外収益の増加等もあり、前回予想を 436 百万円上回る 2,116 百万円となる見込みであります。

当期純利益につきましては、上述 及び に加え、特別利益 44 百万円及び特別損失 25 百万円の計上があり、また、利益の増加に伴う法人税等の増加もありましたが前回予想を 306 百万円上回る 1,906 百万円となる見込みであります。

(5) ご参考:前期の実績(平成 18 年 4 月 1 日～平成 19 年 3 月 31 日)

(単位:百万円)

	売 上 高	営 業 利 益	経 常 利 益	当 期 純 利 益
連 結	6,299	256	262	317
個 別	4,799	239	249	360

上記の予想は、本資料の発表時現在において入手可能な情報をもとにした仮定を前提としており、実際の業績は、今後様々な要因によって異なる結果となる可能性があります。

以 上